## 【6】 実践事例

―――― 授業づくり ――――

### ［1］「夏だ！夏だ！」の単元の実践

生活単元学習を見直すなかで、今年度は 6月中旬～ 7月中旬までの時期に、今までの「なばた発表会」に替わり、「夏だ！夏だ！」という単元を設定することにした。この単元は、夏という季節の到来、 1学期のまとめの時期、といったことを考慮し、学部全体で行う「夏まつり」を一つの柱としながら、各クラスの実態を生かした独自の学習が展開できるようにした。

#### (1) 単元設定の理由

- 子どもたちは、あそびが大好きであり、特に自由さのあるあそびは没頭して行う。
- 自分のしたいことを選んで、それを思い切りしたい自我の充実・拡大期の子どもたちが多い。
- 自己中心性が強く、約束や順番、きまり等を守って行う活動は苦手であり、集団活動への参加能力を育てていきたい子どもたちである。
- 遊び的要素がたくさん盛り込め、友だちや先生と楽しさを共有できる。
- その子なりの活動や楽しみ方を認めることができ、生活経験の拡大が図れる。
- 各クラスの特徴や生活年齢に応じて役割を分担し、学習が系統的に展開できる。
- あそびやみたてつもり活動、製作活動、表現活動、社会性を培う活動等、いろいろな学習を総合的に組み入れることができる。
- 季節的にまさにぴったりであり、裸になれ、身体全体を使う活動にちょうどよい。
- 子どもも大人も楽しめ、わくわくする。

※本単元の指導計画は、Ｐ37を参照。

#### (2) 各組の主な題材と教師の願い

| | 主な題材・活動 | 教　師　の　願　い |
|---|---|---|
| 1組 | ・裸になってあそぶ<br>・水あそび<br>・絵の具あそび<br>・粉あそび<br>・だんごやさんごっこ<br>・だんごづくり<br>・おみこしづくり | ・この時期に、裸で感覚的な遊びを楽しんでほしい。<br>・子どもの自由な発想に寄り添い、共に遊びたい。<br>・先生や友だちと遊び、楽しさを共有してほしい。<br>・身体を使って、ダイナミックに遊んでほしい。<br>・自分でしたいことを決め、それを思い切りして満足感が得られるようにしたい。<br>・感触あそびを十分に体験できる機会にしたい。 |
| 2 | ・やきそばやさん<br>・魚つりやさん<br>・看板づくり | ・みたてつもり活動をたっぷり楽しんでほしい。<br>・やりたい気持ちを支えにしながら、自主的な活動を導き出したい。 |

| | | |
|---|---|---|
| 組 | ・おみこしづくり<br>・おみせやさんごっこ<br>・お祭りごっこ | ・自分たちで考えたお店やおみこしを具体化し、それを使って、思い切り活動できるようにしたい。<br>・友だちと関わって、お祭りを楽しめるようにしたい。 |
| 3<br>組 | ・スライムづくり<br>・かき氷やさん<br>・ゲームやさん<br>・あわおどりを教えてあげよう<br>・祭りを盛り上げよう<br>・おみこしづくり | ・1組2組のみんなが喜んでくれ、自分たちも楽しめるお店を考え、実現させたい。<br>・しっかり働いて、たくさんの人に作ってあげる活動、（遊び的労働）も取り入れたい。<br>・教えてあげたり、リーダーになったりという高学年らしさの発揮できる場にしたい。<br>・より現実の大人社会に似たものを準備したい。 |

**(3) 「はじめの会」の実践（合同学習） ― 子どもたちの意欲を引き出すために ―**

今まで経験したことのない新しい単元の発足の会として、「はじめの会」の学習を行った。ここでは、子どもたちの関心や意欲を引き出すことを重点におきながら、次のような学習を展開した。

①題材名　　「みんなで夏まつりがしたいね」　（2時間扱い）

②本時目標　　・夏らしさを少しは感じ取り、「夏まつり」をしてみたいという気持ちをもつ。

③学習過程と児童の反応

| 学習活動 | 教師の意図・支援 | 児童の反応 |
|---|---|---|
| 1．夏ってどんなことをするのかみんなで考える。<br>・海水浴<br>・キャンプ<br>・すいか、アイスクリーム、ビール（？）<br>・ゆかた、お祭り | （興味・関心をひくための支援）<br>・教師が強烈な夏のイメージで登場し、寸劇をする。<br>・夏を象徴するような衣装や小道具を身につける。<br>・効果音と同時に登場し、オーバーな演技をする。<br>・他の教師も一緒になって夏のイメージをアピールする声をかける。 | ・次々と繰り広げられる教師のインパクトのある衣装や演技に笑いやどよめきが起きる。<br>U男 ― 目を丸くして見つめる。<br>小1児童 ― 先生たちの演技に驚き、喜んで釘付け状態。<br>A子 ― 小物にさわりたくて前に出る。<br>N男 ― 他の場面は興味がないが、食べ物が出ると寄って来る。 |
| 2．夏まつりの雰囲気を知る。<br>・おどり、はっぴ<br>・たこやきや<br>・アイスクリームや | ・夏まつりのちょうちんを飾り、場面を夏まつりの会場の様にする。<br>（してみたいという気持ちを盛り上げるための支援）<br>・教師がはっぴを着て、楽しそうにおどりを踊ったり、たこやきやを演じたりする。<br>・教師が、「楽しいな、してみたいな」と共感を得るような声かけをする。 | T男 ― ずっと着席して、見入る。<br>C男 ― 自分もたこやき屋がしたくて、立ち上がろうとする。<br>M男、C男、A子、G男、O子、Y子、D男、 ― たこやき屋に自然に集まる。<br>R子 ― 目の前のアイスクリームに嬉しそうに手を伸ばす。 |
| 3．小学部で夏まつりをすることを相談する。 | ・子どもたちと一緒にうちわを持ったりはっぴを着たり、祭りの絵本を見たりする。<br>・「あわおどり」の軽快な曲をかけ教師自身も楽しみながら、子どもたちの自然な動きを待つ。 | ・はっぴを差し出すと、1組児童は立ち上がって、自分から手を通そうとする<br>E子、O子 ― 絵本をじっと見る。<br>I子、S子 ― はっぴを着て嬉しそう。<br>・思い思いに、お店やさんになったり、はっぴを着たり、うちわを持ったりしながら、まつりの気分を味わう。 |

④本時を振り返って

- 子どもたちは、学習時間が終わっても祭りのおどりを踊り、お店やさんに没頭したりした。ある程度、子どもたちの関心や意欲を引き出すことができたと思う。
- 「～ちゃんは夏に何する？」と聞いてみたり、わざと冬の物を提示したりして反応を見るなど、子どもたちが自分で考える場の設定が不十分なまま、一方的な学習の流れになった。
- 教師のオーバーな演技、具体物、効果音は、子どもたちの心を引きつける要因になると感じた。

先生、ぼくもたこやきしたい

### (4) 各組の「お店やさん」の取り組みとその支援

夏まつりでは、各組が趣向をこらした「お店やさん」を出した。各組とも、子どもたちの発達段階や個性、好きなこと等を考慮しながら、「お店」を決定し、教師の支援の下に生き生きとした活動が見られた。下のその取り組みの様子について述べる。

| 組 | 店 | 設定の理由 | 主な支援 | 児童の様子 |
|---|---|---|---|---|
| 1組 | だんごやさん | ・子どもたちは全員食べることが好き<br>・粘土遊び、砂遊びが好き（みたてつもりで、だんごを作っていた）<br>・手順が簡単でわかり易い | ・生地の感触を十分楽しめるよう、遊び感覚を重視する<br>・「くるくる、こねこね」と教師が歌いかける<br>・子どもの実態により、どんな形や大きさも認める<br>・自分たちが食べた後、お家の人の写真を提示し、「食べてもらおうね」と話しかける | ・材料や生地を見ると、目を輝かせて近づき、手を伸ばした<br>・自由に遊びながら丸めたりへびを作ったりして、楽しむ<br>・K男は歌に合わせてリズミカルに丸め、見本のようにできて喜んだ<br>・みんなにこにこしておいしそうに食べる。教師の提案に「うーん」と言ってうなずく |
| 2組 | やきそばや・つりや | ・子どもたちにたずねると「やきそばや」を選ぶ<br>・子どもたちの手で簡単にできる | ・カップめんを用い、繰り返し作ることで自信につなげる<br>・ダンボールで店舗を作ることで、子どもたちの店に対する思いを深める | ・「やきそばや」に対する見通しが立ち、やきそば作り、店舗作り、店への呼び込み練習など、生き生きと取り組んだ・当日は自分の役割りがわからず、戸惑いも見えた |
| | | ・魚つりはよく親しみ、好きな活動である<br>・魚の裏のくじで楽しめる<br>・文字や数に親しめる | ・個に応じて作業を分担し、得意な活動ができるようにする<br>・子どもたちの発想を生かした店舗をつくり、意欲を高める | ・U男、M子は集中してくじを作りやり遂げて満足した<br>・R子は自分のできる景品渡しの仕事につき、「どうぞ」と渡した |
| 3組 | かき氷・ポップコーン・ゲーム | ・夏まつりで見かける店の中から自分たちも食べたい物を扱い、楽しんでできそうな店を取り上げる<br>・やってみて楽しく、1、2組の人も楽しんでもらえそうなゲーム。景品をあげたら喜んでもらえそう | ・何度か試した結果、自分が好きで、楽しんで活動できそうな店が選べるようにする<br>・個の特技やできそうなことを考慮しながら、店の仕事を本人に任せる<br>・自分のエプロンを作り、はりきって取り組めるようにする | ・かき氷やを選んだB男は、力一杯かき氷機を回し、楽しみながらたくさんのかき氷を作った<br>・G男はポップコーンやになって嬉しく「いらっしゃい」とはりきって声かけをした<br>・N男は特技を生かして得点係をし少しの間は集中して取り組めた<br>・O子は喜んで景品を渡した |

### (5) 「夏まつり」当日の様子

「夏まつり」は、 7月 6日、家の人や身近かな先生方を招いて、右のようなプログラムで行った。

当日、子どもたちは、はっぴを着て「わっしょいわっしょい」のかけ声とともに入場した。そして、自分たちの作ったおみこしや、準備してきた店について紹介した後、それぞれの店で、家の人たちを接待した。また、家の人と一緒にお店やさんになったり、お客さんになったりしながら、楽しい時を過ごした。出し物は、合同音楽の時間に学習した曲を発表し、 3組のリードによって「あわおどり」を踊ると、祭りは一気に盛り上がりを見せた。また、会場を暗くし、 OHPを使って花火の情景を映し出すと大きな歓声も上がった。

こうして、子どもたちと家の人たち、教師が一体となり、楽しい「夏まつり」を過ごすことができた。

「夏まつり」プログラム

1. おみこしをかついで入場
2. おみこしとお店の紹介
3. 夏まつり
   - お店やさんになる（お家の人の接待）
   - お家の人と一緒にお客さんになったり、お店の人になったりして楽しむ
   - 「出し物」の発表をする
     （いっぷにっぷじゃんぷ）
     （なかよくあくしゅ）
   - 「あわおどり」を踊る
   - 花火を見る
4. 退場

おみこし「わっしょい」

おいしいおだんご「はい、どうぞ」

保護者の感想から

- 「夏まつり」という一つの活動の中に、いろいろな領域が組み込まれていて、それぞれ個性豊かな子どもさんたちが、自分の好きな所で自分の力を発揮でき、親と子、家族が参加できるのは、よかったなあと思いました。
- 夏らしく楽しい出来事が、また一つ頭の中にインプットされた事と思います。みこし作りお店の商品作りなど、夏まつりまでの準備も楽しみながら学習していけることは大きな魅力だったと思います。家族のお店やさんもみんな楽しんでいらっしゃったようでした。

### (6) 反省と課題

各組独自の学習と、合同学習を取り交ぜながら行った本単元「夏だ！夏だ！」は自由さに富み、子どもたちの実態や希望を取り入れながら、保護者、教師も一体になって楽しめる単元だった。

題材は子どもたちの実態を考慮して慎重に設定したが、実際の活動場面で、どの子も十分に活動し、満足感が得られる支援ができたかどうか反省が残る。子どもたちの希望や選択を重視しながら、できる状況づくりをどのようにしていくのかが今後の大きな課題である。本単元で経験した活動が、自由遊びの中に発展していった児童もあり、経験の積み上げの重要性を感じた。将来、この経験が、地域参加への楽しみにつながることを願いたい。

（小坂祥子）